

会 議 報 告

区 分	内 容
会 議 名	令和7年度第4回こどものまち前橋若者会議
日 時	令和7年12月22日（月）18：10～20：10
場 所	前橋市保健センター2階 研修室
出 席 者	齋藤会長、吉野副会長 こども政策課：佐藤課長、小暮副参事、齋藤副主幹、奈良主任、野村主任
議 題	(1) これまでの取組概要 (2) 前橋市こども基本条例について (3) 前橋市こども計画の素案について (4) こども意見聴取について
結 果	・前橋市こども計画については、資料（案）によりパブリックコメントを実施することで承認 ・意見等があれば1月16日（金）までに各委員が事務局に提出
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) これまでの取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生向けワークショップ及びアウトリーチ型意見聴取について説明した。 <p>(2) 前橋市こども基本条例について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素案に関するパブリックコメントの実施結果について報告するとともに、今後の周知などの取組予定を説明した。 <p>(3) 前橋市こども計画の素案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども計画は、「本編」、別冊1「事業実施計画」、別冊2「施設整備計画」、別冊3「第三期前橋市子ども・子育て支援事業計画」で構成される。これに加え、概要版及びこども向けのやさしい版を作成する。 ・名称は「前橋市こども計画」とし、サブタイトルとして8月に開催したワークショップでこどもたちが考案した名称案を採用したい。サブタイトルの決定方法はパブリックコメントにおいて投票形式で最も票を集めた名称案軸に必要な応じて文言の修正を行った上で決定する予定である。 ・基本理念及び基本目標についても、同じくワークショップでこどもたちから出された意見を反映し、骨子から変更を行っている。 ・本計画をこどもから大人まで幅広く周知するため、小中学生向けの「やさしい版」及び計画の内容を要約した「概要版」を作成している。 ・各論は、基本目標の下に施策の柱を位置づけ、さらに「施策の柱」は「現

状と課題—関連データ—施策の方向性—具体的な取組（主な事業を抜粋）」で構成している。

- ・成果指標と目標値については、国の「こども大綱」、県の「ぐんまこどもビジョン 2025」のほか、本市の関連する計画の指標を参考に設定している。
- ・計画期間終了後に、成果指標の実績値を集約し、評価・検証を行う。また、計画期間中は、毎年度、事業や取組の実施状況を取りまとめ、進捗状況を確認するとともに、「こどものまち前橋有識者会議」及び「こどものまち前橋こども・若者会議」の意見を聴取し、推進本部で課題を共有しながら、進捗状況の評価・検証し、必要に応じて見直しを行う。
- ・今後のスケジュールは、パブリックコメントを令和7年12月25日（木）から令和8年1月30日（金）まで実施し、その後、提出された意見を踏まえて修正を行い、3月に内容を決定し、令和8年4月から計画を開始する。

（４）こども意見聴取について

- ・こども意見聴取の実施にあたり、庁内において参加者の確保が共通の課題として挙げられた。このため、意見表明に関心のあるこどもを公募し、登録者リストを作成しておくことで、意見聴取や事業への参画依頼を円滑に行えるようにする仕組みづくりとして、人材バンクを設置する旨を説明した。
- ・現在の名称は仮称としているが、より親しみやすく、わかりやすい名称があればご意見をいただきたい。
- ・本会議は固定メンバーにより構成され、こども施策に関する継続的な検討を行うとともに、ワークショップの運営にも参画する。一方、人材バンクは、必要に応じて意見表明の機会に参加してもらうための登録制度である。
- ・謝礼については、庁内で基準を設けて対応する。また、こどもたちが楽しみながら参加できるよう、参加回数に応じて段階的に昇級していくゲーム型の制度を導入することについても検討している。

3 閉会

主な意見、感想
など

（１）これまでの取組概要

特に意見なし

（２）前橋市こども基本条例の素案について

（吉野副会長）

- ・クリアファイルは実用性に優れており、こどもが長期間使用することが期待できるアイテムである。配布対象を小学4年生以上としている意図を伺いたい。小学3年生において、社会科で自分の住む市について学習することから、その後の学年である4年生を配布対象とすることは、学習内容との関連性の面でも適切なタイミングと考えられる。

(こども政策課)

⇒・権利に関する内容を理解できる発達段階を踏まえると、おおむね小学4年生頃からが適当であると考えられるためである。

(3) (仮称) 前橋市こども計画の骨子案について

(吉野副会長)

- ・資料3の5ページに記載されているいじめ件数については、近年は積極的な認知が進んでいることも背景にあると考えられるため、その点を注釈等で補足した方が良いのではないかと。現在の児童がいじめを行いやすくなっているとの誤解を招くおそれがあり、偏見を助長する可能性があるため、表現には慎重な配慮が必要である。

(こども政策課)

⇒・資料3のいじめ件数のグラフについては、提示していたグラフのみでは誤解を招くおそれがあったため、パブリックコメント開始に向けて全国の児童虐待件数のグラフに差し替えることとした。今後は、市の状況も含め、積極的認知の影響等を説明できるよう、追加資料の作成等を進める予定である。

(こども政策課)

- ・名称は「前橋市こども計画」とし、サブタイトルを小中学生のワークショップで考案された3案の中から採用したい。パブリックコメントにおいて、考案された3案を提示し、その中から1案を選択して投票できるようにする。
- ・パブリックコメントの実施にあたっては、提示している3案が小中学生のワークショップで考案されたものである旨を説明に付記する。また、投票結果を踏まえ、最も得票の多い名称案を軸として一定の修正を行う可能性があることについても注釈として示す。
- ・パブリックコメント後は、最も多くの得票を得た名称案を基本としつつ、必要に応じて表現を一部修正する可能性があるが、具体的な修正内容は現時点では未定である。語句の置換や複数案の要素の組み合わせといった微調整を想定している。

(齋藤会長)

⇒・「前橋」が重複することについては、こどもたちに親しみをもって受け止めてもらうことを重視するのであれば、「まえばし」等の地域名をあえて残すことにも一定の効果があると考えられる。

(吉野副会長)

- ⇒・ワークショップに参加して名称案を考えてくれたこどもたちの取組を十分に生かすために、提示している3案を基本として名称を決定することが適当であるとする。
- ・投票結果を踏まえて微調整を行う際に、原案から一定程度離れた表現となる場合であっても、市民から寄せられた意見を基礎として名称を決定するという前提は維持する必要がある。
- ・例えばAグループでは、他市町村の計画名称を参考にしながら、ひらが

な・カタカナ・漢字をどのように組み合わせるかを議論しており、その結果として現在の名称案が作成された経緯がある。このため、提示した3案の修正を行うと、子どもたちが考えた案に大人が介入したという受け止めにつながりかねない。重複している等の意見が出る可能性はあるが、それらを踏まえたうえで「子どもたちが出してくれた言葉をそのまま尊重して採用した」というメッセージ性を持つ点で、原案を基本として用いる意義は大きい。また、変更すべきとの意見が寄せられた場合には、原案を採用する理由として説明を示すことが可能である。仮に修正を加える場合であっても、市民からの意見を踏まえて調整するという方針を明確にすることで、説明の整合性を確保できると考える。

(子ども政策課)

- ・ワークショップでは、子どもたちの意見を伺いながら、基本理念や基本目標に反映できる内容を整理した。「どんな市にしたいか」といった問いに対しての回答もできる限り踏まえてまとめている。これらの内容はパブリックコメントでも提示する予定であり、寄せられた意見により修正が生じる可能性もあるが、現時点での案についてどう思うか。

(吉野副会長)

- ⇒・変更前の表現と比べると、変更後の表現は「こどもが健やかに育つ」といった趣旨がより簡潔でありながら成立している一方で、「主体」を明確にし、こどもも大人も当事者として関わることを示している点に意義があると思う。また、「共に」という語には、こどもと大人が協働しながらまちをつくっていくという含意を持たせることができ、その点が好ましい。さらに、「みんなが」という表現も、キーワードとして有効である。加えて、基本目標3に掲げている「こどもは社会を元気にする原動力」という視点についても良いと思う。

(4) こども意見聴取について

(吉野副会長)

- ・昇級制度については、1年度ごとにリセットされるのか。

(子ども政策課)

- ⇒・昇級制度については、年間の活動回数が4回程度であることから、年度内に上位ランクまで到達することは難しいと考えられる。しかし、制度として年度をまたいで継続的に参加できる仕組みとすることで、昇級の楽しさを継続して感じてもらえるため、必ずしも年度ごとのリセットを行う必要はないと考える。

(吉野副会長)

- ・昇級制度を採用する場合、昇級によって付与される肩書きのみとするのか、あるいは昇級に応じた何らかの対価や特典を設けるのか。

(子ども政策課)

- ⇒・対価や特典を伴わず、参加や達成そのものを楽しめるスタンプラリー形

式を導入するのはどうか。

(齋藤会長)

⇒・ワークショップで実施したように、昇級の際にメダル等の形で達成を可視化するのも良いのではないか。現在、こどもたちの間では性別を問わずシールが流行しており、友人同士でシールを交換し合い、付加価値の高いシールを集める活動が見られる。

(吉野副会長)

⇒・全員が受け取れるメダルであっても、グレードに応じて色やデザイン、記載される文字を変えるなど、メダルの仕様に差異を設けることで楽しさが増すのではないか。

また、学齢ごとに区分を設けて独自の級や称号を設定することで、こどもが再参加しやすくなり、高校生からの新規参加者も楽しめる仕組みとなる。学齢に応じて景品等を変えることで、より魅力的なアイテムを提供できる利点がある。

(齋藤会長)

⇒・各区分における景品については、次の区分へ進級した際に役立つ内容(物品)とすることも一案である。

(齋藤会長)

・景品を配布しない選択肢もあるのか。また、各課がそれぞれ事業を実施する場合、最終的な参加状況等の集計は、こども政策課が取りまとめるのか。

(こども政策課)

⇒・そのとおりである。景品については基準を設けたうえで、配布の有無は各課の判断とする。また、当該人材バンクの公募を当課で行うため、参加状況等については各課から情報を共有してもらい、当課において把握していく。

(吉野副会長)

・当該人材バンクは、基本的には対面で開催される意見聴取の場に参加できるこどもを対象とするのか。

(こども政策課)

⇒・そのとおりである。基本はワークショップのような対面形式の意見聴取を中心としたい。大規模な意見聴取を行うほどではないものの、少数の意見を確認したい場合には、オンラインや簡易アンケートなど、さまざまな手法を用いて意見を収集できるようになるのが望ましい。

(こども政策課)

・名称を聞いた際に、どのような印象を持つか。当該制度は、こどもに登録してもらい、必要に応じて意見表明や事業への参加を依頼する仕組みであることから、「バンク(登録制の仕組み)」という名称に一定の合理性があると考えた。中核市に対して類似制度の有無を確認したところ、「人材バンク」という名称を用いているのは愛知県一宮市のみであった。

(齋藤会長)

⇒・「人材バンク」という名称については、硬い印象を受ける。愛知県一宮市においては、「人材バンク」が制度名ではなく、サブタイトルの的に使用されている。

(吉野副会長)

⇒・制度全体として他の施策や取組が展開された際にも一貫して用いることのできる、キーワードやニックネーム、通称のような呼称があると良いのではないか。呼称が設定されていることで、こども会議との違いがより明確になり、当該制度を通じて多様な取組が可能となることへの期待感が生まれる。

(こども政策課)

・こどもの参加を促す方法について、現行の広報手法以外の有効な手段はあるか。高校生はホームページ等の情報だけでは参加につながりにくい一方、学校メールを活用すればこども本人や保護者に直接届くため、参加のきっかけとなり得るとされた。また、小・中学生については、保護者による後押しが期待できるが、高校生ではその効果は限定的である。

(吉野副会長)

⇒・こどもによっては、学校に掲示されたポスターなどを自分で見て主体的に参加しようとする可能性もあり、掲示物による周知の方が効果的な場合がある。

・市有施設へのチラシ配布は通常の周知手法として行っているが、それ以外の場所では、どのような場所にチラシを配置することが多いのか。スーパーなど、こどもや保護者が日常的に利用する場所に置くことが効果的だと考える。また、市の施設はもともと関心の高い層には届きやすい一方、学校経由の連絡は他の情報に埋もれやすい。募集の狙い（関心のある層を集めるのか、広く周知するのか）に応じて、配布場所を使い分ける必要がある。

(齋藤会長)

⇒・市内のこども食堂は、こどもや保護者が利用する機会が多いため、チラシを設置する場所として有効である。

(こども政策課)

・こどもにとって、参加したくなるような魅力的な特典とはどのようなものか。「前橋市こどもの権利の日」の前後に、シンポジウムの開催を予定している。その際、現時点で内容は未定ではあるが、こどもが発表できる場を設けることも検討している。発表を希望するこどもにとっては参加しやすい一方で、人前での発表を望まないこどもは参加をためらう可能性がある。

(吉野副会長)

⇒・こどもは、積極的に発言したい層と、人前での発言に抵抗を示す層に二極化する傾向があると考えられる。積極的に発言したいこどもにとっては、意見聴取に参加できること自体が特典となるのではないか。

(齋藤会長)

⇒・市が実施するこどもが参画できる事業(「まえばしこどもアイデアまちづくりプロジェクト」)等に、登録者が定期的に参加できる仕組みとすることを検討してはどうか。

(こども政策課)

⇒・各課で実施するこどもの参画事業は近年増えているものの、参加者の確保には依然として課題があり、担当課では対応に苦慮している状況である。こうした状況を踏まえ、人材バンクの導入を検討している。

- ・登録者には、事業の実施情報を直接通知し、参加の機会を確実に届けることができる。
- ・今日の意見を参考にさせていただき、引き続き検討していきたい。

(こども政策課)

・今年一年活動してみてどうだったか。

(齋藤会長)

⇒・こどもたちと接する機会は日常的にあるものの、こども施策について話題にする機会は少ないため、広く周知していくことは容易ではないと感じている。一方で、市内ではこども食堂が定期的で開催されていることから、こども食堂を通じた周知を依頼することは、新たな視点として有効ではないかと考える。また、ワークショップについても、こども食堂やこども人材バンク等へ周知を依頼する方法が可能であると思われる。さらに、「すぐーる」については情報量が多く、必要な情報が埋もれてしまい閲覧されにくいとの声も聞いている。そのため、本当に届けたい情報については、「すぐーる」だけでなく、目にとまりやすいチラシ等の紙媒体による周知が重要であると考えます。

(吉野副会長)

⇒・将来教員として前橋市で勤務する可能性もあり、その際に今回の取組をこどもたちへ紹介することができればよいと感じている。一方で、学校を通じた情報発信については、担当する教員の関心によって伝え方が大きく左右されるため、適否を慎重に検討する必要があると考えている。こども人材バンクの趣旨は、学校を介さずにこどもへ直接アプローチできる仕組みをつくることにあるため、学校を第一の手段とするのではなく、あくまで選択肢の一つとして位置づけることが望ましい。むしろ、スーパーなど日常的に利用する場所の方が、こども自身が「自分で見つけた情報」として受け止められ、価値が高まるのではないかと感じている。

また、3案から選択する今回の投票形式については、気軽に意思表示ができる点に魅力を感じている。将来的には、日常的なテーマでも構わないので、こどもが気兼ねなく意見を表明できるような仕組みがあると望ましい。今回の素案のように選択式を導入しつつ、こどもが統計目的ではなく“自分の意見を出した”と実感できる新たな枠組みがあると面白いと感じた。

ワークショップに参加したこどもたちが市長から評価されたり、自分た

ちで議論した内容が実際の資料に反映されると知らせた際に、笑顔が広がっていた場面が印象的であった。自ら機会を見つけて参加する場合だけでなく、日常のふとした瞬間に送った意見が市全体と共有される経験は、こどもが「参加できた」と実感するうえで非常に貴重である。こうした仕組みを、説明資料や配布物の一部に組み込むことも、有効な工夫になるのではないかと考える。

(こども政策課)

- ・こどもたちが意思を表明できる機会を今後も継続的に創出していくことが重要である。同時に、こども食堂など地域で行われている取組とも連携しながら進めていく必要がある。まさにそのために条例を制定し、計画を策定しているところであり、こうした連携を通じてこどもの参加の機会を広げていくことが求められる。

引き続き、さまざまな関わり方があることを踏まえ、来年度以降もぜひ意見をいただきたい。

以上